

# 野球ひじ

## 検診20年

佐竹寛史医師に聞く

# 受診者数拡大 19年800人

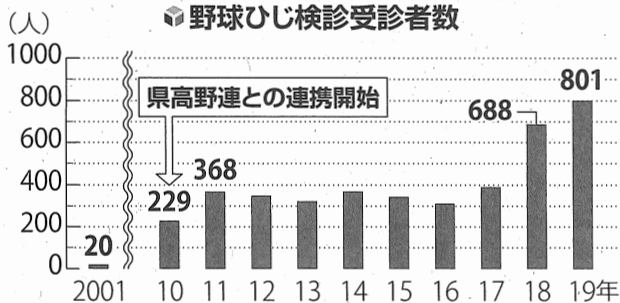
え続け、新型コロナウイルス禍前の19年の受診者数は約800人。検診の会場も、県高野連の事務局が入るスポーツ会館(山形市)になりました。

### 5連携

の人たちとの交流では一貫して感じていきます。

「検診には、研修医や山形大医学部の学生も補助役として参加する」

### 野球ひじ検診受診者数



野球ひじの予防が山形で熱心なのはなぜか、とよく聞かれます。指導者層に理解する人が多かったから、だと思えます。山形の場合、野球ひじになった子は、山形大医学部付属病院(山大病院)で診てもらうことが多い。その山大病院には、野球ひじに高い関心を持つ医師がいた。いずれにせよ、子どもの健康を第一に考えるという土壌が確固としてあると、山形の野球界

## 医療者も学びの場に

「県高校野球連盟(県高野連)、山形市中学校体育連盟との連携が2010、11年にそれぞれスタート。山大病院の医師と理学療法士、一部の少年野球チームで始まった野球ひじ検診は、大きな転機を迎える」

「検診の主役はもちろん受診する子どもたちですが、我々医療従事者にとって、学びの場でもあるんです。多くの野球少年や保護者、指導者の生の声を聞くことができ、院内での実習より、よっぽど役立ちます。参加をきっかけに、スポーツ障害を担当する整形外科を目指す学生もいます。」

(聞き手 常陰亮佑)